演習Ⅰ

担当者 宍戸　邦章

開講時期 通年　　**単　位** 4

●講義の概要

少子高齢化や社会的包摂にかかわる理論を学び、受講生の研究テーマを実証的に明らかにする方法について解説する。先行研究の検討、定量的・定性的社会調査を通じた研究テーマの探求を目指す。

●講義の到達目標

少子高齢化や社会的包摂に関する現代的事象についての理解を深めるとともに、修士論文の作成に必要な研究能力（具体的には、研究課題の設定、先行研究の精査、社会調査のスキルや分析方法の洗練等）を養う。

●講義計画

前期は少子高齢化や社会的包摂に関する文献を輪読する。また、受講生が関心をもつ研究テーマについて関連文献を検討し、研究課題の限定と明確化を目指す。

後期は、明確化した研究課題についての資料を収集するとともに、サーベイやフィールドワークを実施し、研究課題のどこまでを明らかにすることができたのか、議論を重ねる。最終的にはレポートのかたちで報告・提出してもらう。

●成績評価基準と方法

〔評価方法〕

①発表・討論（50%）

②期末レポート（50%）

〔評価基準〕

①少子高齢化や社会的包摂にかかわる基本的な知識を習得しているか。

②先行研究を深く検討することで、自分の研究課題を明確化することができているか。

③社会調査の方法を習得し、必要な情報を収集・整理できる能力を高めているか。

④上記を踏まえた上で、修士論文の骨子案になり得るような期末レポートを作成できているか。

●テキスト又は参考文献

受講生の問題関心に合わせて、適宜指示する。

●受講上の留意点

演習は受講生が主体となる場である。「調べる」、「考える」、「まとめる」プロセスを丁寧に、かつ、迅速に行うことを期待している。